

教育への おもい

「学びの里・只見」の創造



教育長 齋藤修一

昨年の12月1日付けで町教育長に就任いたしました齋藤修一と申します。微力ではありますが皆様方のご指導ご鞭撻をいただきながらふるさと只見のために教育行政に全力で取り組みたいと考えております。

まず、「開かれた教育行政」を推進していききたいと思います。残念なことです。教育委員会は何かしているか分からないという声も耳にします。教育行政を更に町民の方々の身近なものにしていかなければならないと感じております。そのために、定例教育委員会を随時各小中学校を巡回しながら実施する等、理解と協力を得られるようにしていきたいと思っております。また、町民の方々の教育への思いや願いが教育行政に届くシステムづくりもしていきたいと考えます。

第二には、町民の方々の信頼にこたえ得る学校づくりをしていきたいと考えております。そのために、保育所、小・中学校、只見高校との連携教育を推進し、基礎学力向上に努め、やがての就職や進学のための基盤をしっかりとしたものにしていきたいと思っております。また、現代の子ども達は夢が無いとよくいわれますが、小・中学校でのキャリア教育を通して職業観の育成を図り、将

来の夢や目標の実現を支援していきたく考えています。こうした只見ならではのいわば一貫教育の中で、自らの将来を自らの力で切り拓いていける自立した子どもを育てたいと思っております。現代の風潮は、やもすると学校でも家庭でも失敗をしないように、つまずかないようにと手をかけすぎて子どもが自立の時期を失っていないか危惧しているところでは、遠くで眼をかけるながらも不自由、不便、不親切の環境の中で育てることが本当の自立心の育成につながるのではないかと考えています。

第三には、生涯学習を通して町民の方々の生き甲斐づくりを支援していきたく考えます。学ぶことは自分という人間が変わることといわれます。まさに、生涯学習は人生のあらゆる時期に自分に必要な学習を自らの意志で取り組み、自らの人間性に一層の磨きをかけ豊かな人生を創造することです。多くの町民の方々に生涯学習に取り組んでいただけるよう学習内容の吟味、学習の場の設定、情報の提供、団体の紹介等を行ったりしながら裾野を拡大していきたいと考えています。また、教育委員会として、30代から40代の中堅若手に政治、経済、文化、産業、地域作り等の視野の広い生涯学習

の機会を提供し、将来の只見町を支える人材を育成したいと考えています。また、スポーツを通じた健康づくりや町の貴重な文化財等への関心を喚起できるような学習の機会も提供していきたいと考えております。

以上抱負を述べさせていただきましたが、今後、地域、家庭、学校、教育委員会の連携が更に強化され、子どもから大人まで学びを通して豊かな人生を送ることができるよう「学びの里・只見」を創造できればと願っております。



▲ 只見小学校で開かれた臨時教育委員会

開かれた教育行政を目指して 只見小学校で臨時教育委員会開催



開かれた教育行政を目指してをテーマに、3月5日、只見小学校で臨時教育委員会が開かれました。この臨時会は、まず児童生徒の保護者に、教育委員及び教育委員会の役割について知ってもらい、教育行政への関心を高めていただくことを目的に行われ、保護者や先生40名が傍聴しました。

会議は二部構成で行われ、第一部では、開かれた教育行政を推進するためにはどうすればいいのか話し合わせ、課題として「教育委員会改革」、「目標の明確な教育行政の推進」、「町民の教育行政への参画」の3点が示されました。

教育委員長を中心に活発な協議がなされ、各委員からは、「学校（先生）や保護者とのコミュニケーションが必要だが、時間が取れないのが現状、教育委員会で調整を図り意見交換の場を設けてほしい」、「教育委員について保護者にもっとPRが必要」、「教育委員は教育全般にかかわる相談役になって保護者などからいつでも意見や要望を聞き取れる体制作りが必要」、「町長との懇談も実施したい」、「自分の目標に向かって進める子どもの育成をしていきたい」、「家庭教育を充実させられる環境を整える」、「定例会も傍聴が可能、もっとオープンに町民が教

育行政に触れられる体制作りが必要」などの意見が出されました。

第二部では、只見町小中学校教育への願いと題し、各委員より保護者へ意見や提案の発表が行われました。その内容は、「なぜ勉強が必要なのか、子どもにしっかりと話をするのが大事」、「小学校時代に経験する感動や感激は成長する過程において影響が大きいので、一緒に感動してください。そして夢を持たせてください」など、委員自らの経験に伴う貴重なものでした。その後、教育委員と保護者とのフリートーキングが行われ、保護者からは、町内の児童生徒に対して均衡の取れた教育環境の充実を願う要望などが出されました。

最後に、教育長のまとめとして、「自分の夢を明確に持つて進める子どもの育成」、「家庭教育の基本について浸透を図り、教育委員会としての支援対策にも今後、取り組んでいく」と述べました。

開かれた教育行政を目指す試みとして行われたこのような教育委員会は、今後各小中学校を巡回し行われる予定ですので、ぜひ参加され、教育委員と意見や情報を交換されてみてはいかがでしょうか。

目指す目標に向け新たなスタート 福島県立只見高等学校卒業証書授与式



▲ 卒業証書を受け取る飯塚洋行さん

春の訪れが待ち遠しい3月1日、平成21年度第46回卒業証書授与式が只見高等学校格技場で行われ、鈴木健司只見高等学校長から、卒業生代表の飯塚洋行さんに46名の卒業証書が手渡されました。

鈴木学校長は式辞で「継続は力なり、志や願いを持つたら実現に向け努力を続けることが大切。夢や希望、冒険心を持ち挑戦する気持ちを忘れずに頑張ること。堂々とした人生を歩まれることを祈念します」と述べました。

続いて目黒町長は「この学校で学んだ三年間は皆さんの財産。自らが蓄えてきた力を発揮し、向上心を持ってこれからの人生を歩んでほしい。自立した社会人になって活躍ください」と祝



▲ 思い出を胸に涙ぐむ卒業生

辞を述べました。

在校生代表送辞で、山内麻椰さんは「先輩達との学校生活は掛け替えのない宝物です。伝統を引き継ぎ、すばらしい学校を築かれたので私たちも頑張ります。これからも只見高校の卒業生としての誇りを胸に皆さんも頑張つて困難に立ち向かっていってください」と述べました。

また、卒業生代表答辞で、五十嵐春喜さんは「父や母の苦勞を少しでも減らせるよう頑張ります。三年間の喜び、怒り、悲しみ、楽しみ、すべてが最高の思い出です。お世話になった方がたに心から感謝します。ありがとうございます」と述べました。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。

3月1日に卒業式を迎える3名の留学生からは「ここでの生活で自分のあまかった部分を克服できました」、「寮生活で学んだことをこれからも活かしていきたい」、「親に頼っていたことばかりだったが、寮生活で自分でできるようになった。ここで生活できて本当に良かった」などと三年間を思い起こし、あいさつをしました。

目黒町長からは、留学生一人ひとりに記念品が贈られ、送別

奥会津学習センターでは、2月26日、只見町山村教育留学生第6期生の送別式が行われ、平成21年度は留学生3名が新たなスタートに向け旅立ちました。

はじめに、目黒町長はあいさつで「両親から離れ勉強したことは貴重な経験。最初は不安もあったと思いますが、良く頑張りました。将来は、学んだ知識を活かせる知恵を身につけ、人の役に立てる人間に成長してください」と述べました。

続いて、齋藤修一教育長が「目標から逃げないこと。人生は常に自分との戦いです。頑張ってください」とあいさつを述べました。



▲ 奥会津学習センターを巣立つ3名の留学生

の意を表しました。

送別式には、只見高等学校からも鈴木健司学校長、星栄一教頭、目黒孝巳PTA会長、矢沢明伸雪椿会長、菅家二千六同窓会長が出席。センターを管理する鈴木慎介NPO法人ゆいネット只見理事長も出席され、留学生を激励しました。

目標に向かって新たな第一歩
只見町山村教育留学生第6期生送別式

小学校外国語活動の充実を目指し・・・ 小学校外国語活動中核教員研修

福島県教育委員会と只見町教育委員会の主催により、2月15日に朝日小学校で、小学校外国語活動中核教員研修が行われ、町内及び南会津域内の小学校教諭など22名が参加しました。

この研修は小学校における

外国語活動の円滑な導入と、教員の指導力向上を図ることなどを目的に、外国語教育アドバイザーの片山知子さんを指導者に迎え、行われました。はじめに、6年生を対象としたモデル授業では、日本語を使わない授業による歌やジェスチャーでの身近な英語表現に親しむこと、ゲームを通



▲片山知子さんの外国語授業

して友だちとのコミュニケーションを図ることを目標に授業が展開され、指導者の片山さんによる笑顔での英語表現と巧みなジェスチャーに児童も引き込まれ、楽しく和やかな雰囲気の中で英語に触れていました。

その後、参加教員による研究会と講義や演習が行われ、子ども同士で簡単な英語のやり取りをさせること、子どもたちを活躍させられる授業を組み立てることなどの話があり、指導方法について片山さんの英語によるゲームなども実習されました。



▲参加教員による研究会

よひこ先輩！ 只見高校生に学ぶ会

1月29日に、只見中学校で只見高校生に学ぶ会が行われました。

これは、全校生徒を対象に総合的な学習の一環で行われ、今年度で只見高等学校を卒業される生徒3名が只見中学校を訪れ、講話されました。

訪れた高校3年生の先輩は、就職が内定している「佐藤亮人さん」、国公立大学に合格した「小林克弥さん」、専門学校に進学する「渡部錬さん」の3名で

す。先輩からは、厳しい就職活動や大変な受験勉強などの経験談をはじめ、経験から身につけた知識や能力、忍耐力の重要性について教訓を講話しました。

只見中学校の生徒は、近い将来自分も経験することとなる岐路を意識し、先輩の話を真剣な面持ちで聞き入っていました。

夢や目標に向かって努力すること、勉強や部活動を一生懸命続けることの大切さについて改めて考えていました。将来の自

分にとって今の中学校生活がどれほど重要で貴重な時間なのか実感することができた有意義な講話でした。



▲只見中学校を訪れた只見高校生

只見町観光まちづくり協会 一般社団法人化第2回発起人会



▲あいさつをする目黒町長

2月17日に、只見町商工会館で只見町観光まちづくり協会の一般社団法人化に伴う第2回発起人会が行われ、関係者8名が出席しました。はじめに目黒町長があいさつで「法人化の実現に向け、詰めの協議をお願いします」と述べた後、定款の作成内容の確認と基金の申し込み状況などについて協議が行われ、定款は作成案のとおり承認されました。

今後のスケジュールとしては3月下旬に同協会の臨時総会が、4月上旬には同協会の定時社員総会が開かれ、新年

度より一般社団法人只見町観光まちづくり協会が営業を開始する予定です。

法人化されると、社会的認知度が上がり、新たな収益事業に取り組めます。さらに第2種旅行業者として各種ツアー観光の商品企画や販売が可能となり、只見からの国内旅行プランの提案など様々なニーズに対応することができま

す。同協会の一般社団法人化により地域の活性化、振興がさらに飛躍することを期待いたします。